2005.7.1

循環器・呼吸器病センター だより

第２８号

猛暑の候、先生方におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。
さて、当センターでは、例年、「いきいき健康塾」を開催しておりますが、本年度も下記のとおり開催を予定しています。お近くにお出かけの際は、お立ち寄りいただければ幸いです。
今後も先生方の御指導、御鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

病院長　　堀江 俊伸

肺動脈血栓塞栓症と深部静脈血栓症　　心臓血管外科副部長　蜂谷　貴

最近航空機を利用して旅行をいたしますと、機内誌には深部静脈血栓症(DVT)の予防法とエコノミークラス症候群と肺動脈血栓塞栓症(PE)の解説が載っています。このようにDVTとPEが病気として市民権を得たものと思います。

欧米ではPEが死亡原因の第6位程度であり、従来よりきわめて重要な疾患と医療従事者は認知しております。一方本邦においてはPEの発生率は低いと考えられ、疾患としてはまれなものとされていました。ところが診断法の進歩やDVTに対する医療従事者の認識の変化などからPEは増加傾向にあります。またPEの原因として90%がDVTであり、さらにDVTには無症候性を含め25%にはPEが合併し、両者は親戚関係といえるでしょう。

センターではDVTを疑われた症例にはまず超音波検査(Duplex sczn)を行います。大腿静脈から膝窩静脈さらに一部の下腿筋内静脈まで無侵襲に観察可能です。次にMR venographyを行います。下大静脈から下腿筋内静脈まで広範囲に血栓の有無を検索でき、95%以上の正診率であり、従来ゴールデンスタンダードとされた静脈造影はほとんど行うことがありません。ここまででDVTの診断が確定し、次にPEの検索とDVTの原因検索をかねて造影CTを胸部から下腿まで行います。PEの診断もほぼ100%CTで可能ですので、肺血流シンチも出番が減りました。またDVTの原因として骨盤内病変や悪性腫瘍がまま発見されます。先にPEと診断された症例には塞栓源の検索としてMR venographyを行い約90%で塞栓源が確定できます。PEの塞栓源としてDVTをみますと、我々の症例の約50%が下腿静脈であり、病理学的な検討でも下腿静脈血栓の塞栓源としての重要性が報告されています。すなわちDVTとしてはむしろ軽症なものにPEの合併率が高いという事になります。

近年DVTの予防ガイドラインが発表されました。消化器外科、整形外科、産婦人科などの先生たちの関心がますます高まり、今後は周術期DVT及びPEが減少することと思います。

ＩＩＩΔＮＯ　*平成１７年度「いきいき健康塾」～今後の開催予定～*　ＩΔＮＯＯＯ

１　開催日時及び会場

①平成17年９月４日(日)13:00～16:30・・・秩父歴史文化伝承館（秩父市）
②平成17年11月13日(日)13:30～16:30・・・寄居町保健福祉総合センター（寄居町）
③平成17年12月10日(土)13:30～16:30・・・江南町総合文化会館ピピア（江南町）

２　開催内容

当センター医師による講演の他に、医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、栄養士等による医療相談等を行います。